

総説

第一章 序言

この報告書は『平城宮木簡一』につづく第二集として編集したものである。今回は第一集以後、昭和三九年度と昭和四〇年度の二個年にわたる発掘調査で出土した木簡九二二点を収録した。木簡の出土した調査地区は、第1表、第1図に示したように七地区である。このうち、平城宮西南隅の南面大垣外側で、宮の外堀を確かめるために行なった調査（6ADI区）の際、堀の下層の埋土から総数七点の木簡を検出したが、腐蝕が甚しく殆どが判読不能なので図版に収載しなかった。のこりの六個所については、次章に木簡の出土遺構と木簡の概要をのべたので詳しくはそれにゆずるが、ここでは今回収録した木簡の特徴を若干指摘しておく。

序言

その一は、朱雀門内で下ッ道の西側溝とみられる遺構から、八世紀初頭の年代を与えることのできる過所木簡が出土したことである。同溝からは、平城京造営中もしくは造営前にさかのぼる遺物が多量にみつかったのであるが、なかでも注目されるのはこの過所木簡である。従来は、公式令の規定（過所式）や唐過所といわれるものに

よって推しはかるにすぎなかったわが古代の過所の実物が出土したことの意味は極めて大きく、本報告書のなかの白眉といえよう。

その二は、6AAC区(H地区)の調査で出土した木簡である。木簡はいずれも東大溝から出土した。溝の埋土は六層にわけられるが、木簡はその各層から検出された。溝底からは天平元年の年紀をもつものが、中間の土層からは天平勝宝・天平宝字年間のものが、最上層からは延暦二年のものがそれぞれ出土し、溝の埋土の堆積が年代順になっていることが知られた。大部分の年紀のない木簡やほかの伴出遺物もその出土層位によっておおよその年代を与えることができる。

その三は、6AAC区(V地区)で出土した造酒司関係の木簡である。造酒司符・造酒司解などの文書木簡、酒米・赤春米などの貢進物付札、これら一群の木簡によってここが造酒司に関する遺構であることが判明するのであるが、さらに興味をひくのは、同地区出土木簡のなかに神亀元年の聖武天皇の踐祚大嘗祭に関するものが含まれていることである。『延喜式』などの大嘗祭の記事によってその片々たる関係木簡資料を大嘗祭行事のなかに位置づけることが可能である。本報告書では、同地区出土の木簡とのかかわりあいにおいて、とくに造酒司と大嘗祭に関する解説を付けることにした。なお同地区の木簡出土遺構は、一部分の検出にとどまっており、同遺構はさらに南にのびていることが確かめられているので、調査がさらに進めば同種資料が多量に出土する可能性は高い。その四は、6AAE・6AAF区の調査で出土した木簡である。内容的には縫殿に関するものが注意されるが、次章でのべるように、ここではむしろ木簡出土の遺構が六十一個所にものぼることが注目される。溝・土壙・井

序 言

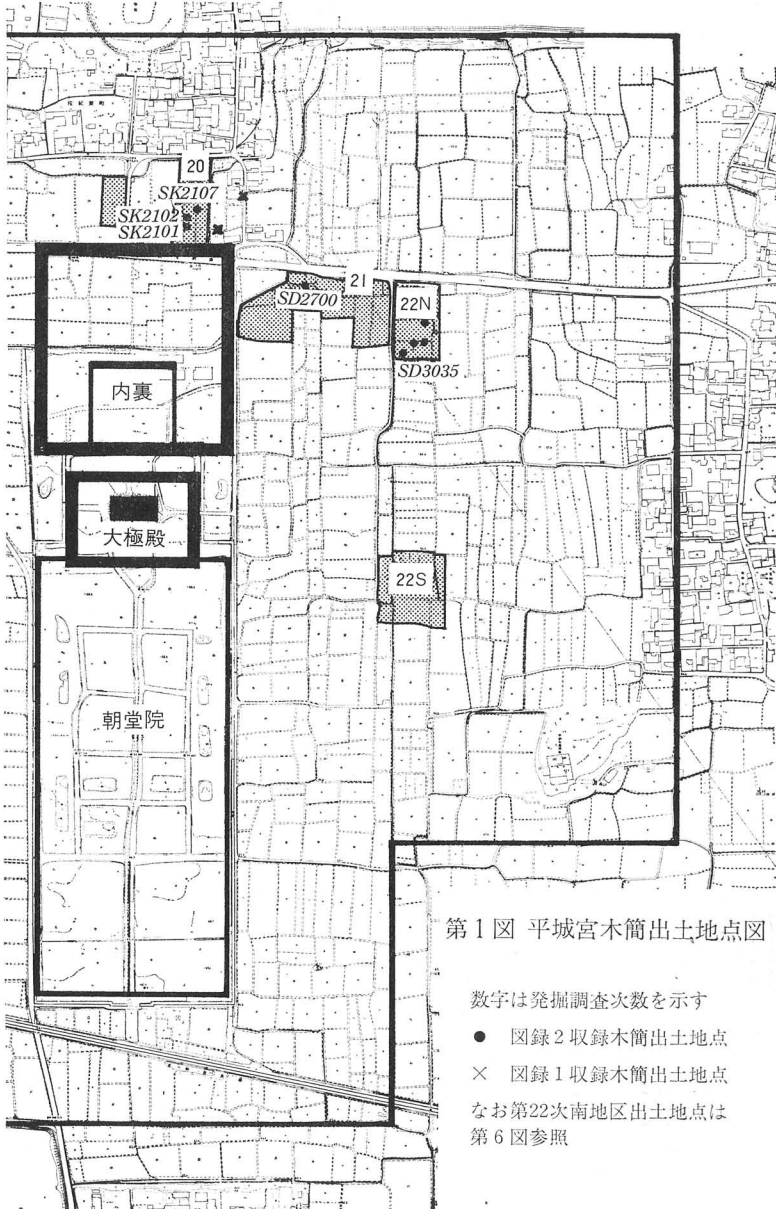
第1表 調査地区別出土木簡点数

次数	調 査 地 区		木簡出土遺構	木簡収載点数 () 内出土点数
14	6ADI	南面大垣堀外	SD 1250	0 (7)
16 17	6ABX・Y	朱雀門方朱内	SD 1900	7 (9)
18	6ADF	西面大垣内	SK 1979	10 (19)
20	6AAO	内裏北方官衙	SK 2101・2102 2107	151 (522)
21	6AAC-H	東大溝	SD 2000・2700	140 (292)
22 N	6AAC-V	造酒司	SD 3035 <small>ほか 3箇所</small>	327 (582)
22 S	6AAE・F	東方官衙	SD 3410 <small>ほか 60箇所</small>	297 (518)
				計 922(1942)

第2表 主要遺構別木簡内容分類

主要遺構	文 書	付 札	そ の 他 内容不明	削 屑	計 () 内 は 総 計
6 A A O SK 2101	9	10	25	67	111
SK 2102	3	6	23	2	34 (151)
SK 2107	0	1	1	4	6
6 A A C H SD 2700	17	47	52	23	139
SD 2000	0	0	1	0	1 (140)
6 A A C V SD 3035	11	117	40	145	313
そ の 他	0	3	11	0	14 (327)
SD 3410	4	3	10	13	30
6 A A E ・ F SD 3154	10	8	11	4	33
SB 3322	7	0	6	17	30 (297)
SD 3154	6	7	18	1	32
付 近 そ の 他	39	34	67	32	172

戸・建物柱穴・整地土などの各種遺構から、三〇〇～四〇〇点の木簡が出土した溝などの二、三の例をのぞくと、多くは数点ずつ出土した。このような例はこれまで他の調査区ではないことであり、木簡がその時々任意に破棄され埋められる顕著な事例といえよう。



序言

